

第2問 微分法・積分法

関数 $f(x)$ の原始関数の一つを $F(x)$ とするので

$$\int f(x) dx = F(x) + C \quad (C \text{ は定数})$$

である。

$f(x)$ の $x=a$ から $x=b$ までの定積分は

$$\int_a^b f(x) dx = [F(x)]_a^b = F(\boxed{b}) - F(\boxed{a})$$

である。

(1) $F(x) = x^3 - 6x^2 + 9x$ とする。 $f(x) = F'(x)$ より

$$f(x) = \boxed{3}x^2 - \boxed{12}x + \boxed{9}$$

$$= 3(x-1)(x-3)$$

である。したがって、 $F(x)$ の増減は次のようになる。

x	...	1	...	3	...
$F'(x) (= f(x))$	+	0	-	0	+
$F(x)$	↗	4	↘	0	↗

よって、 $F(x)$ は $x = \boxed{1}$ で極大値 $\boxed{4}$ 、 $x = \boxed{3}$ で極小値 $\boxed{0}$ をとる。

(2) $f(x) = x^2 - 2x - 3$ とし、座標平面上で曲線 $y = f(x)$ を D とする。

$F'(x) = f(x)$ より

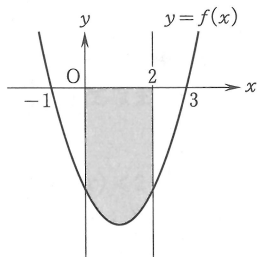
$$F(x) = \int f(x) dx$$

$$= \int (x^2 - 2x - 3) dx$$

$$= \frac{\boxed{1}}{\boxed{3}}x^3 - x^2 - \boxed{3}x + C \quad (C \text{ は定数})$$

と表される。

D の $0 \leq x \leq 2$ の部分と 2 直線 $x=0$ 、 $x=2$ 、および x 軸で囲まれた図形は、次図の影の部分である。



この図形の面積 S は

不定積分

$F'(x) = f(x)$ が成り立つとき、 $F(x)$ を $f(x)$ の原始関数という。
 $f(x)$ の原始関数の一つを $F(x)$ とするとき

$$\int f(x) dx = F(x) + C$$

(C は定数)。

定数 C を積分定数という。

定積分

$f(x)$ の原始関数の一つを $F(x)$ とすると

$$\int_a^b f(x) dx = [F(x)]_a^b$$

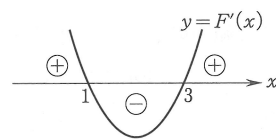
$$= F(b) - F(a).$$

導関数

$$(x^n)' = nx^{n-1} \quad (n \text{ は自然数}),$$

$$(c)' = 0 \quad (c \text{ は定数}).$$

$F'(x) (= f(x))$ の符号は、 $y = F'(x)$ のグラフを用いると調べやすい。



$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C$$

($n=0, 1, 2, \dots$, C は定数)。

$f(x) = (x+1)(x-3)$ より、曲線 D と x 軸の交点の x 座標は

$$x = -1, 3.$$

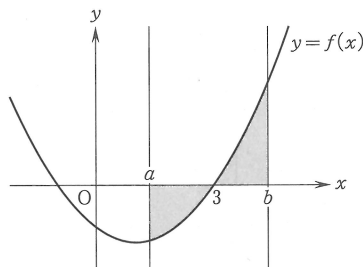
$$\begin{aligned}
 S &= \int_0^2 \{-f(x)\} dx = \left[-F(x)\right]_0^2 \\
 &= -F(2) - \{-F(0)\} \\
 &= F(\boxed{0}) - F(\boxed{2})
 \end{aligned}$$

であり, $F(0) = C$, $F(2) = -\frac{22}{3} + C$ であるから

$$S = C - \left(-\frac{22}{3} + C\right) = \frac{\boxed{22}}{\boxed{3}}$$

である.

$0 < a < 3$, $3 < b$ とする. D の $x \geq 0$ の部分と 2 直線 $x = a$, $x = b$ および x 軸で囲まれた二つの図形は次図の影の部分である.



この二つの図形の面積の和 T は

$$\begin{aligned}
 T &= \int_a^3 \{-f(x)\} dx + \int_3^b f(x) dx \\
 &= \left[-F(x)\right]_a^3 + \left[F(x)\right]_3^b \\
 &= -F(3) - \{-F(a)\} + F(b) - F(3) \\
 &= F(\boxed{a}) + F(\boxed{b}) - \boxed{2} F(\boxed{3}) \\
 &= \frac{1}{3}a^3 - a^2 - 3a + \frac{1}{3}b^3 - b^2 - 3b + 18
 \end{aligned}$$

である.

$b = a + 3$ のとき, T を a で表すと

$$\begin{aligned}
 T &= \frac{1}{3}a^3 - a^2 - 3a + \frac{1}{3}(a+3)^3 - (a+3)^2 - 3(a+3) + 18 \\
 &= \frac{\boxed{2}}{\boxed{3}}a^3 + a^2 - \boxed{3}a + \boxed{9}
 \end{aligned}$$

である.

T を a で微分して

$$T' = 2a^2 + 2a - 3.$$

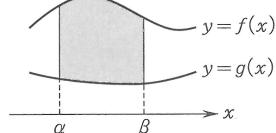
$0 < a < 3$ における T の増減は次のようになる.

a	(0)	...	$\frac{-1+\sqrt{7}}{2}$	...	(3)
T'		-	0	+	
T		↘		↗	

面積

区間 $\alpha \leq x \leq \beta$ においてつねに $g(x) \leq f(x)$ ならば, 2 曲線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ および直線 $x = \alpha$, $x = \beta$ で囲まれた図形の面積 S は

$$S = \int_{\alpha}^{\beta} \{f(x) - g(x)\} dx.$$



$$F(x) = \frac{1}{3}x^3 - x^2 - 3x + C$$

(C は定数).

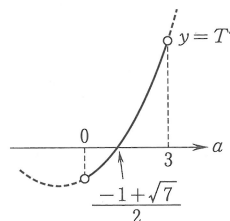
$F(0) - F(2)$ を計算するときは, $C = 0$ として計算してもよい.

$$F(x) = \frac{1}{3}x^3 - x^2 - 3x \text{ すなわち}$$

$C = 0$ として計算してよい.

$$F(3) = \frac{1}{3} \cdot 3^3 - 3^2 - 3 \cdot 3 = -9.$$

T' の符号は, $y = T'$ のグラフを用いると調べやすい.



よって、 a が $0 < a < 3$ の範囲を動くとき、 T は

$a = \frac{\boxed{-1} + \sqrt{\boxed{7}}}{\boxed{2}}$ で最小値をとる.